

業 種	鉄道
取組分野	自然災害（地震・津波）・安全啓発活動（沿線住民）
テ ー マ	災害時の避難場所情報整備、マップ、ハンドブックで備えあれ
取組の狙い	地震や津波などの災害時対策として周辺住民と利用者がスムーズに避難できるように、鉄道付近の避難場所の周知を行う。
具体的内容	<p>江ノ島電鉄株式会社（以下、「江ノ島電鉄」という。）は、東日本大震災を契機に、地震や津波などの災害時対策の総合的・継続的な取組を目的として、各部署から参加のプロジェクトチームを発足した。</p> <p>プロジェクトチームは、「避難場所マップ」の設置、「災害時避難場所路面シート」を各駅周辺に設置、「災害時避難ハンドブック」の作成・配布、「緊急避難はしごの全車両常備」、「災害対応訓練の実施」などを実施した。社員は、避難所の見学、避難ルートを歩いて実体験する等、社を挙げて安全・安心に取り組んでいる。</p> <p>【避難場所マップ】</p> <p>全 15 駅に災害時の避難場所マップを設置。</p> <p>2013 年には、お客様に安全に避難してもらうため避難場所や避難経路の見直しを図った。</p> <p>【災害時避難ハンドブック】</p> <p>2015 年に作成。誰でも自由に手に取れるように、全 15 駅にラックを設置し配布（約 50,000 部）。</p> <p>駅長や助役が沿線の学校にも訪問し、交通安全教室の開催時などにも配布。広域避難場所や、津波一時避難場所をはじめ、避難経路や距離、海拔、駅員配置の有無など、細かい情報を掲載し、わかりやすい色合いを用いて、理解しやすく作成している。</p> <p>また、「災害時避難ハンドブック」に掲載されたマップは、江ノ島電鉄で独自に作成。日々変わりゆく街の情報を更新できるように市のホームページやロコミ、実地調査で収集するなど、定期的に更新を行い、2017 年に第 2 版を発行。さらに 2019 年には第 3 版を発行する予定である。</p>



【災害時避難場所路面シート】

2013年には、行政と連携をとり、駅からの最寄避難場所への経路を示す災害時避難場所路面シートを、各駅周辺に設置している。無人駅や浸水が予想される駅もあることから、誘導できない駅もあり、地域の方にも事前に知っていただく目的もあり作成している。



取組の効果

この取組を実施することにより、江ノ島電鉄と地域住民や自治体との関係が深まるとともに、沿線住民や自治体の災害に対する意識が高まり、例えば、「災害時避難ハンドブック」を持って防災ハイキングを行い、これを見ながら実際に避難訓練をする団体や、2018年実施時は、沿線高校の生徒が参加する等、活動の輪が広がりつつある。また、地域の自治体も避難マップの見直しのすり合わせを行うようになった。社員もこれを携帯し、実際の経路を歩くことで、人事異動があった際も対応できるよう訓練も行っている。

事業者名

江ノ島電鉄株式会社 鉄道部旅客課 (0466-24-2713)